

令和元年度 第2回羽曳野市立図書館協議会会議録（要録）

日 時： 令和2年3月17日(火) 午後1時30分～午後2時10分

場 所： 羽曳野市役所 A棟中東会議室

出席者：(委員) 脇谷委員、菊川委員、平井委員、渡辺委員、上野委員、小澤委員、中平委員、
河津委員、菅谷委員、瀬戸口委員

(教育委員会) 麻野教育長、上野教育次長兼生涯学習室長

(事務局) 細井課長事務取扱参事、奥野参事、岩佐課長補佐、安東

傍聴者： 2人

●開会

教育長挨拶

(教育長 公務のため退席)

事務局より、議事録の要録をWEB及び中央図書館で紙ベースで公開することを報告

協議会委員の紹介

事務局職員の紹介

●議事

会長挨拶

議題 令和2年度羽曳野市立図書館事業計画（案）について

事務局：(『令和2年度図書館事業計画（案）』により説明)

委員：講座、おはなしボランティアの講座を5～6月に行うと聞いているが載っていないので確認したい。

事務局：ご指摘のとおりで、抜けています。申し訳ありません。

委員：時期はどうか。

事務局：このあと相談させてください。

委員：サピエ図書館について、どれほどの利用を見越しているか、他市の状況は、財源は。

事務局：他市状況の数字は持ち合わせていない。録音図書の利用で登録いただいている方は20～30名くらい。財源は、市の予算成立前だが、市の予算として計上している。

議題 第3次羽曳野市子ども読書活動推進計画について

事務局：(『第3次羽曳野市読書活動推進計画』冊子により内容、経過等説明)

他の委員から補足があればお願いします。

委員：アンケートで、図書館職員の派遣を希望される施設が多かった。小学校・義務教育学校では図書館利用に熱心に取り組んでくださっていることがわかった。中学校・義務教育学校後期の司書がいなかったところでは、読書活動が重要と考えているが専門知識を持った司書がいなかったため、学校図書館を開館する余裕がないとの回答もあった。

計画としては大きく変えることはできなかった。予算に限りがあり余裕がない、正規司書職員

の採用が実現しない現状がある。市立図書館と、各学校や関係機関の連携をいっそう強化し、羽曳野市の図書館を核としてよりいっそう子どもたちの読書環境が整うことを願いながらこの計画をたてた。これから約5年間、図書館協議会でも意見をいただけたらと思う。

会長：小学校には司書配置されているが、中学校に司書配置されていないことで、せっかく積み上げてきた子どもたちの図書館利用のノウハウが途切れてしまうのではないかと危惧している。協議会としてもはたらきかけができればと思う。

委員：前回、しっかりと検証ができていなかったことを委員として反省している。きっちり進捗状況の説明を求めているかなければと思う。図書館協議会でも議題として報告してもらおうよう事務局にお願いする。

事務局：子ども読書推進委員会を常設とし進捗管理をやっていききたい。協議会は図書館のことについて、推進委員会は図書館が事務局ではあるが市の政策としての、市全体のことになるので、区別していききたい。

その他

会長：これ以外で委員からご意見はないか。

委員：提案したいことがある。(資料を配布、説明)

資料はH30年度の羽曳野市の業務活動報告書と河内長野市の図書館の年報から抜粋したもの。比較するのは難しいのだが、正規職員の数が羽曳野市は4名、河内長野市は10名となっている。倍以上が正規の職員でいらっしゃる。羽曳野市の正職のうち3名は定年を間近にひかえておられる。関係団体やボランティアとの連携、図書館の行事の企画決定は正規職員でないと判断が難しいのではないか。羽曳野市全体を見通して何が図書館に必要なか、市民に対してどのような企画が必要なのかを判断するのは正規職員ではないかと思う。図書館協議会で羽曳野市は児童に対する行事は充実しているがヤングアダルト世代、大人向けの行事が少ないと意見が出ている。河内長野市の例では、全世代型の講座を実施している。やりたくても正規職員が少ないのでできないというつらさの思いを持っているのだと推察する。

資料には羽曳野市全体の非正規率と図書館の非正規率を載せている。図書館の非正規率があまりに高いと言わざるを得ないと思う。もちろん嘱託員、非常勤の方も一所懸命仕事をしてくださっている。それらの方を束ねて職員の力を発揮してもらうために、これまで力を尽くしてきた職員の意志を受け継ぐ次の世代の正規司書職員の採用を早急に求めたいと思う。図書館協議会でこれまで正規職員の採用を願ってきた。市との交渉で訴えてきてもらっているが、進展が見えない状況で、図書館協議会として一步踏み出し、市に要望書を出したいと思うが、いかがか。

委員：賛成する。今日の事業計画で言いたいことはいっぱいあったのだが、毎回成人向けの事業をやるよう言ってきた。正規職員がいらないから全世代に対するサービスができず、子ども中心になっているのが残念。このままでは退職されたら正規職員がゼロになりこれでは図書館の未来がないと強く思っている。図書館が少しでも良くなってほしいというから協議会委員をさせてもらっている。ぜひ協議会から要望書を出してほしい。

会長：これまでも図書館協議会では正規職員の増員を求める意見が出ていたし、さきほどのパブリックコメントの報告でもそのような意見が多く出ていた。図書館協議会から要望書を出すことに賛同いただけるか。

(全会一致で賛成)

(会長より案を配布、内容を読み上げ)

会長 : ご意見をお願いします。この文案で市長さん、教育長さんあてに提出させていただくことでよろしいでしょうか。(反対意見なし) ご協力ありがとうございました。

会長 : 他にご意見は。

委員 : この時期なので来年度の予算について資料費などわかっていたら教えてほしい。

事務局 : 議会をまだ終えていないので予定の額になる。大きなところは変更ないが、非正規職員—現在嘱託員と非常勤職員だが、制度が変わり会計年度任用職員という形に変わるので給与面で上がる。毎年市全体の中で予算の削減が求められる中、図書館費の中では削減できるだけの枠の項目が資料費しかなく、残念だが 100 万円以上下がる予定。わずかだが中央図書館の 20 周年記念事業の予算がつく予定。

会長 : ほかにご意見がなければ本日の会議は終わらせていただきます。

事務局 : 来年度も 2 回の協議会を予定していますが、新型コロナウイルス感染症の状況により中止をふくめて変更になる場合もあるかと思いますのでよろしく願いいたします。

●閉会

教育次長挨拶

コロナウイルスの影響で臨時休館し、予約資料の受け渡しや返却の受付などをさせていただいていますが、この期間を利用して通常5月に休館して実施している蔵書点検を昨日から作業を進めています。コロナについては健康にかかわることなので市としても慎重に取り扱っていきたいと考えています。